

平成 27 年度 聖ドミニコ学園幼稚園 自己評価報告

平成 27 年度の聖ドミニコ学園幼稚園は、教育目標「ドミニコと共に真理を求め自由に生きる」に基づいて、中項目 1、一人ひとりを大切にする 2、自発性を育てる 3、豊かな関わりを育てるという 3 点を重点目標として保育を行なった。

A（十分達成されている） B（達成されている） C（取り組まれているが成果が十分ではない） D（取り組みが不十分である）という段階に基づき評価している。

1. 一人ひとりを大切にする

昨年度に比較して「神様が一人ひとりを見てくださっていることを生活の折々に伝えている」という目標は A と B を合わせて百パーセントになり、さらに評価項目「愛されると実感できるような言葉がけをしている」点についても百パーセントになるなど、保育に一番大切な「愛されている」という項目の評価が高いことが際立っていた。しかし「教師自身が神様から愛されているという実感を折々に伝えている」点では、昨年度よりも評価が低下したことが気になる。「一人ひとりを大切にする」という重点目標では、まず、教師自身が神様に愛されているという精神的安定感が子どもたちの成長につながっていくことを考慮し、これからも重要視していきたい。

2、自発性を育てる

教育目標「自発性を育てる」は、昨年、一昨年に比べ、大きな進歩がみられた。特に「子どもの興味や関心、欲求を生活の折々に尊重する」ことや、「子どもが自分の気持ちを表現するまで待っている」こと、さらに「子どもが友だちのなかでも自分を発揮する自信を持てるように配慮する」等に関して、それぞれ達成されているとの評価が百パーセントになった。ただし、「子ども自身が自分の課題や目標に気がつくように援助する」働きかけが低迷している。これは今後の課題である。これらの目標を達成させるには家庭との関わりが大切であり、家庭との協力関係を作っていく努力が求められる。

3、豊かな関わりを育てる

幼稚園生活で最も大切なことは、園児たちが「幼稚園は楽しいところ」、「幼稚園に早く生きたい」と思ってもらえることだと思う。そのために教師たちはいろいろ工夫していることから、「友だちとの生活が楽しいと思えるような雰囲気作りを心がけている」や、「年下の子どものお世話が上手く出来るように配慮している」が百パーセント「達成されている」という評価に現われている。

ただ、「教職員同士が人と人とのかかわり方の模範になっている」ことや「園生活を通じて、保護者同士の協力関係が円滑になるよう配慮している」点については、十分ではないという評価も高かった。これからの努力点である。